

立山砂防世界遺産登録推進
ユースプログラム
—これまでのあゆみ—



富山県世界遺産登録推進事業実行委員会
2024（令和6）年3月

【はじめに】

富山県には、世界有数の急流河川が多く流れています。河川は幾筋にも分かれ、昔から幾度となく氾濫したため、先人たちは持てる知恵や技術を駆使しつつ、治水や砂防に懸命に取り組んできました。その代表例が立山砂防であり、世界的にも高い歴史的・文化的価値を有しています。

このため、富山県と関係市町村では 2007（平成 19）年に「立山・黒部」を世界文化遺産候補として、文化庁に提案しました。文化庁からは、「砂防の提案に大変見るべきものがあり、発想も新しい」との評価とともに、「世界史的・国際的視野に立ち、砂防関連資産等の全体像を明らかにし、国内外の同種資産との比較研究を行い、また国の文化財指定を進めること」といった課題が示されました。

これを受け富山県では、立山砂防を中心に、砂防施設の国重要文化財指定、顕著な普遍的価値の調査研究によって資産価値の充実に努めるとともに、国際シンポジウムの開催などを通して、県民への普及啓発を進めてきました。

そのひとつが、次世代を担う若者に立山砂防の歴史と価値を学んでもらい、先人の英知やふるさと富山の魅力を再認識してもらうユースプログラムの実施です。本プログラムは 2013（平成 25）年から毎年実施していますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、中止を余儀なくされた年もありました。一方、小学生の参加コースの開設といった新たな試みも行いました。

本書は、これまで計 10 回開催した本プログラムの記録です。今後さらに工夫を図りプログラムを充実させ、県民一丸となって世界遺産登録に取り組むたいと考えています。

【目 次】

1	立山砂防と世界遺産登録	1
2	ユースプログラムの概要	2
3	2013（平成 25）年の概要	3
4	2014（平成 26）年の概要	5
5	2015（平成 27）年の概要	7
6	2016（平成 28）年の概要	9
7	2017（平成 29）年の概要	11
8	2018（平成 30）年の概要	13
9	2019（令和元）年の概要	15
10	2020（令和 2）年の概要	17
11	2021（令和 3）年の概要	19
12	2022（令和 4）年の概要	20
13	2023（令和 5）年の概要	22
14	ユースプログラムでの主な提案	24



白岩堰堤（昭和 14 年竣工）



本宮堰堤（昭和 11 年竣工）



泥谷堰堤（昭和 13 年竣工）

1 立山砂防と世界遺産登録

(1) 立山砂防の文化遺産

立山カルデラは室堂平の西側に位置する巨大な侵食カルデラである。幕末の1858(安政5)年、マグニチュード7.1(推定)の飛越地震が発生し、崩壊した約4億 m^3 の土砂が立山カルデラに堆積した。そのうちの2億 m^3 が天然ダムの崩壊によって一挙に富山平野に流れ下って大きな被害を引き起こした。残り2億 m^3 はいまだにこのカルデラの中に残されており、下流の土砂災害を防ぐため、大規模な砂防事業が100年以上にわたり、営々と進められている。

とりわけ、1926(大正15)年から砂防の父と呼ばれる赤木正雄によって計画され、気鋭の砂防技術者たちによって建造された我が国の近代砂防を代表する白岩堰堤、本宮堰堤、泥谷堰堤などは、防災遺産として歴史的・文化的な価値を有している。また、その砂防技術は立山砂防から日本中に広がり、現在は東南アジアや中南米などの砂防事業に活かされ、それぞれの国の安全・安心を守っている。

こうしたことから、富山県と関係機関は立山砂防の世界文化遺産登録に取り組んでいる。

(2) 顕著な普遍的価値

世界遺産登録には顕著な普遍的価値が求められるが、立山砂防には次のような特徴を見出すことができる。

- ① 立山砂防は、災害が多い国で生まれた防災の総合技術であること
- ② 世界の中で日本の総合的な水系管理技術が近代における到達点であること
- ③ 立山砂防が近代的な防災技術の一つの典型となっていること

(3) 登録に向けた主な取組み

【調査研究】

- ・常願寺川流域における歴史的砂防施設群の調査 2009(平成21)年～2023(令和5)年
- ・立山砂防の世界的評価に関する技術調査 2013(平成25)年
- ・立山カルデラ防災遺産比較分析調査 2014(平成26)年
- ・立山砂防世界文化遺産資産範囲調査 2015(平成27)年
- ・『日本固有の防災遺産 立山砂防の防災システムを世界遺産に』発刊 2015(平成27)年
- ・『Tateyama Sabo Disaster Prevention System 日本固有の防災遺産 立山砂防の防災システム』発刊 2016(平成28)年

【普及啓発】

- ・第36回国際水文地質学会の開催 2008(平成20)年 富山市内
- ・国際砂防フォーラムの開催 2009(平成21)年～2011(平成23)年 富山市内
- ・世界遺産条約採択40周年記念富山会議の開催 2012(平成24)年 富山市内
- ・世界遺産国際シンポジウムの開催 2012(平成24)年～ 富山市内・東京都内
- ・ユースプログラムの開催 2013(平成25)年～ 富山市内
- ・産業考古学会富山大会県民シンポジウムの開催 2013(平成25)年
- ・INTERPRAEVENT2014 in Naraでの発表 2015(平成27)年
- ・砂防学会富山大会の開催 2016(平成28)年
- ・土木学会土木史研究発表会富山大会の開催 2016(平成28)年
- ・INTERPRAEVENT2018 in Toyamaでの発表 2018(平成30)年
- ・ICOMOS年次総会(モロッコ)でのポスター発表 2019(令和元)年
- ・INTERPRAEVENT2021 in Bergen(ノルウェー)での発表 2021(令和3)年
- ・日本へのクリエイティブな旅展2022(フランス)での展示 2022(令和4)年

- ・INTERPRAEVENT2023 in Taiwan での発表 2023(令和5)年
- ・ICOMOS 総会 (オーストラリア) でのポスター発表 2023(令和5)年
- ・パンフレット「立山砂防 富山平野を守る防災施設群」作成 2015(平成27)年
- ・パンフレット 英語版・仏語版「Tateyama Sabo」制作 2020(令和2)年
- ・DVD「立山砂防 世界文化遺産登録を目指して」制作 2015(平成27)年
- ・DVD「アニメ立山砂防・土砂との闘い～世界に誇る防災遺産～」制作 2017(平成29)年
- ・DVD「英語版アニメ立山砂防・土砂との闘い～世界に誇る防災遺産～」制作 2018(平成30)年

2 ユースプログラムの概要

(1)趣旨

本県の世界遺産候補や歴史文化・自然などについて学ぶユースプログラムを実施し、若い世代への普及啓発を図り、あわせて未来の世界遺産を担う人材育成に寄与する。

(2)経緯

- ・2013 (平成25) 年 大学生等を対象にプログラムを実施開始。
- ・2017 (平成29) 年 新たに高校生コースを開設。
大学生等コース、高校生コースの2コース化。
- ・2020 (令和2) 年 新型コロナウイルス感染症の影響で、高校生コースを中止。
- ・2021 (令和3) 年 新型コロナウイルス感染症の影響で、両コースを中止。
- ・2022 (令和4) 年 新型コロナウイルス感染症の影響で、高校生コースを中止。
- ・2023 (令和5) 年 大学生等コースと高校生コースを統合。
新たに小学校5年生～中学校3年生までの児童・生徒とその保護者を対象とした親子コースを開設。

(3)参加人数

	R5	R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25
大学生等コース	15	12	/	12	11	9	9	15	13	19	11
高校生コース		/	/	/	26	37	21	/	/	/	/
親子コース	22	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

3 2013（平成 25）年の概要

(1) 期 日 8月24日（土）～27日（火）

(2) 場 所 座学：富山国際会議場 視察：五箇山の合掌造り集落・立山カルデラ

(3) 参加者 11名

(4) プログラム

期 日	時 間	内 容	場 所
8月24日 （土）	9:00～	オリエンテーション	富山国際会議場 205号室
	9:15～	講座（稲葉信子 筑波大学大学院教授） 「世界遺産の概要Ⅰ」	
	11:00～	講座（松島吉信 富山県知事政策局課長） 「富山県の歴史と文化」	
	13:00～	現地視察（五箇山の合掌造り集落）	相倉集落
8月25日 （日）	9:00～	オリエンテーション	富山国際会議場 205号室
	9:05～	講座（稲葉信子教授） 「世界遺産の概要Ⅱ」	
	10:45～	講座（今井清隆 立山カルデラ砂防博物館長） 「立山の自然と災害」	
	13:00～	映像上映	
	13:30～	講座（三上幸三 立山砂防事務所長） 「立山カルデラ砂防事業の概要」	
8月26日 （月）	8:30～	現地視察 立山カルデラ砂防博物館、立山砂防トロッコ （工事専用軌道）乗車、白岩堰堤 等	立山カルデラ
8月27日 （火）	10:00～	オリエンテーション	富山国際会議場 205号室
	10:05～	講座（川上孝裕 富山県土木部砂防課副主幹） 「新たな世界遺産登録への取組み」	
	11:15～	まとめ・意見交換（稲葉信子教授）	



《レポート》

「立山カルデラ現地視察を終えて」

富山県立大学 第3学年生

今回の視察を終えて、これまでの勉学で手に入れた知識を肌で感じる事の出来る素晴らしいものであったように感じます。私自身富山の出身者ではないため、富山県に関する知識として、これほどまでに富山県で行われている砂防技術が高いものであることを今回のセミナーを受けるまで知りませんでした。視察の中で、富山での水災、富山県内での洪水や氾濫に対する試行錯誤の痕跡をたどることができ、オランダからやってきたヨハネス・デ・レーケや初代事務所長である赤木正雄さんという偉大な先人たちから受け継いだ技術を、後世に伝えるために多くの人々が努力をされている様を目の当たりにしました。

今後の富山県における砂防技術の課題として、これらのことについてPRなどが挙げられると考えています。上記したとおり、私自身今回のセミナーを受講するまで富山県でPRされているものといえば食材で言えば鰯や白海老、蛸烏賊、場所であれば氷見や立山、黒部、技術で言えばYKKぐらいの知識しかなかったので、今回のことを受けて富山県の砂防技術についての高度な技術力を知り、このことをもっと多くの人に知ってもらいたいと感じました。他県に対するものではなく、県内にいるこれからの社会を担う富山県の若者にしなければならぬと思います。視察の後に、幾人かの富山出身の学生にこの話をしたところ、「知らなかった」と、言うような返答が多くありました。多くの人に引き継がれてきたこの技術を、広めていくことは当然であり必要不可欠なことではないかと考えます。



4 2014（平成26）年の概要

(1) 期 日 8月21日（木）～24日（日）

(2) 場 所 座学：環日本海交流会館 視察：立山カルデラ

(3) 参加者 19名

(4) プログラム

期 日	時 間	内 容	場 所
8月21日 （木）	12:30～	オリエンテーション	環日本海 交流会館 大会議室
	13:20～	講座（西 和彦 文化庁文化財調査官） 「世界遺産の総論」	
	14:40～	講座（松島吉信 富山県知事政策局課長） 「富山県の歴史と文化」	
8月22日 （金）	8:30～	現地視察 立山カルデラ砂防博物館、立山砂防トロッコ （工事専用軌道）乗車、白岩堰堤 等	立山カルデラ
8月23日 （土）	10:00～	オリエンテーション	環日本海 交流会館 大会議室
	10:05～	講座（岡田保良 国士舘大学教授） 「これからの世界遺産」	
	13:00～	映像上映	
	13:30～	講座（本田孝夫 立山カルデラ砂防博物館長） 「立山の自然と災害」	
	14:40～	講座（長井隆幸 立山砂防事務所長） 「立山砂防事業」	
8月24日 （日）	10:00～	オリエンテーション	環日本海 交流会館 大会議室
	10:05～	講座（尾定 琢 富山県土木部砂防課主幹） 「立山・黒部の取組み」	
	11:10～	まとめ・意見交換 （尾畑納子 富山国際大学教授）	

《レポート》

※世界遺産登録推進国際フォーラム2014（H26.11.3開催）で発表
「ユースプログラム報告～立山砂防の世界遺産登録に向けて～」

富山県立大学 第4学年生
同志社女子大学 第3学年生
富山大学大学院 第1学年生

私達学生が目線からの世界遺産登録に対する提言を発表させていただきます。

1日目は世界遺産に関する基本的な内容と富山県の歴史についての講義を受けました。2日目は工事専用のトロッコに乗り、カルデラの内部へと向かいました。乗車中に、崖崩れや、自分の体よりも大きな石が落石によってトロッコの線路をふさいでいる光景を見て、カルデラ内は常に危険と隣り合わせであるということを実感しました。白岩砂防堰堤などを実見し、今なお工事を続けなければいけない意味とその重要性を知りました。泥谷堰堤のように、砂防工事が自然との共生にも役立っていることに感動しました。3日目は国士

館大学の岡田教授、立山カルデラ砂防博物館の本田館長、立山砂防事務所の長井所長からお話いただきました。4日目は世界遺産登録に向けた取り組みの講義を受け、その後、グループに分かれてディスカッションを行い、立山砂防の世界遺産登録についてどうすれば良いと思うかを考え、グループごとに発表しました。

意見交換の場にて出た意見をまとめ、立山砂防の世界遺産登録推進に関して、私達から2つの提案をしたいと思います。

立山砂防について県民を中心として、認知度を上げるための2つの提案をいたします。

まず、教育の実施についてです。富山出身の方から、「立山の認知度が高いのは、小学生の時に、立山に関する教育を受けるからだ。」という説明がありました。このことから、砂防についての教育も同時に行ったらどうでしょうか。

次に、2つ目のメディア化についてです。砂防に関する映画を製作するなどしたらどうか、という意見がありました。中でも、「土石流の映像が凄い！実写では難しいが、アニメ映画ならどうか。」との熱弁があり、実際、アニメというものは、内容にもよりますが、若年層を中心に受け入れられやすいものですし、良い提案なのではないかと思います。

私たちは今回の研修を通して、立山砂防の歴史、重要性を学ぶことが出来ました。現在でも私たちの生活を支えている砂防の役目、歴史は非常に価値あるものだと思います。

この体験を通じて得たもの、感じたものを、少しでも多くの人に伝え、世界遺産登録に向けた取り組みに少しでも協力していきたいと思っています。



5 2015（平成27）年の概要

(1) 期 日 8月19日（水）～22日（土）

(2) 場 所 座学：高志の国文学館 視察：立山カルデラ

(3) 参加者 13名

(4) プログラム

期 日	時 間	内 容	場 所
8月19日 （水）	13:00～	オリエンテーション	高志の国文学館 研修室 101
	13:30～	講座（下間久美子 文化庁文化財調査官） 「世界遺産の総論」	
	15:00～	映像上映	
8月20日 （木）	10:25～	オリエンテーション	高志の国文学館 研修室 101
	10:30～	講座（本田孝夫 立山カルデラ砂防博物館長） 「立山の自然と災害」	
	13:00～	講座（長井隆幸 立山砂防事務所長） 「立山砂防の紹介」	
	14:30～	講座（尾定 琢 富山県土木部砂防課主幹） 「立山・黒部の世界文化遺産登録の取組み」	
8月21日 （金）	8:30～	現地視察 立山カルデラ砂防博物館、立山砂防トロッコ （工事専用軌道）乗車、白岩堰堤 等	立山カルデラ
8月22日 （土）	10:00～	オリエンテーション	高志の国文学館 研修室 101
	10:05～	まとめ・意見交換 （尾畑納子 富山国際大学教授）	



《レポート》

「ユースプログラムに参加して」

富山国際大学 第1 学年生

今回のユースプログラムを通じて、たくさんの歴史・文化を吸収することができたと思います。以前は立山砂防や立山カルデラについて、ほとんど知りませんでした。今回のプログラムのおかげで、立山カルデラについて多くの事実を知ることができました。世界遺産として登録してもらうためには、知名度が必要になってくると考えられるので、自らおおいに情報を発信し、無限の樹形図のように広がり、繋がっていけばよいと考えます。

「ユースプログラムに参加して」

富山県立大学 第3 学年生

実際に砂防ダムを学び、見学することができ、実により体験となったことはもちろんであり、この砂防ダムを世界遺産に登録しようという熱い思いを強く感じ取ることができました。当初、砂防ダムと聞いて、コンクリートの壁がドンと立ち上がるだけのイメージを持っていましたが、大きな思い違いをしていたことに気付きました。砂防ダムは自然を守りつつ生物が住みやすいように工夫されて建設されており、その知恵にすごさを感じました。



6 2016（平成28）年の概要

- (1) 期 日 8月24日（水）～27日（土）
 (2) 場 所 座学：富山県民会館 視察：立山砂防
 (3) 参加者 15名
 (4) プログラム

期 日	時 間	内 容	場 所
8月24日 （水）	13:00～	オリエンテーション	富山県民会館 704号室
	13:30～	講座（鈴木地平 文化庁文化財調査官） 「世界遺産の総論」	
	15:00～	映像上映	
8月25日 （木）	10:25～	オリエンテーション	富山県民会館 704号室
	10:30～	講座（本田孝夫 立山カルデラ砂防博物館長） 「立山の自然と災害」	
	13:00～	講座（大坂 剛 立山砂防事務所長） 「立山砂防事業・現在の暮らしと立山砂防」	
	14:30～	講座（松島吉信 富山県知事政策局参事） 「立山・黒部の世界文化遺産登録の取組み」	
8月26日 （金）	8:30～	現地視察 立山カルデラ砂防博物館、立山砂防トロッコ （工事専用軌道）乗車、白岩堰堤 等	立山カルデラ
8月27日 （土）	10:00～	オリエンテーション	富山県民会館 704号室
	10:05～	まとめ・意見交換 （尾畑納子 富山国際大学教授）	

《レポート》 ※世界遺産登録推進国際シンポジウム2016（H28.12.11開催）で発表
 「ユースプログラム報告～立山砂防の世界遺産登録に向けて～」

一橋大学 卒業生

私たちの目線から見た立山砂防の世界遺産登録に対する提言を発表します。

初日は、世界遺産に関する基本的な内容について、文化庁の鈴木文化財調査官から講義を受けました。2日目は立山砂防に関係する方々から、より詳しい内容の講義を受けました。なお、この日は富山県立富山高校の探究科の生徒さん10名も出席されました。富山高校ではカリキュラムの中に、ふるさと富山の歴史・文化を取り入れており、事前に立山砂防を視察した上で、さらに詳しく学ぶために、参加されたとのことでした。3日目は待望の立山カルデラの現地視察でした。国の重要文化財に指定されている「白岩砂防堰堤」では落差108mの一番上の堰堤から下流を望むことで、世界有数の大きさの砂防堰堤のスケールの壮大さを感じました。また、70年以上に渡り私たちの生活を守り続けている砂防堰堤の重要性を学び、さらにはコンクリートの構造物でありながらも周囲の景観に配慮がなされていることにも、大きな感動を覚えました。最終日には、富山国際大学の尾畑教授の進行のもと、4グループに分かれ、私たち若者の視点から立山砂防の世界遺産登録を進めるための方法などを話し合いました。

立山砂防を学び、実際に現地を見ましたが、砂防の用語や名称などはかなり難解で、かつ、立山カルデラであるような大規模な工事が行われているということを多くの方々は知らないと思います。

そこで、大きく2つの提案を行います。1つ目は、「砂防と防災をもっと分かり易く情報発信を行うこと」です。具体的には、今回のようなユースプログラムを継続するなど、ふるさと富山に住む子供たちや若い世代に砂防や防災をもっと知ってもらうための教育を浸透させること、そして立山カルデラ砂防博物館の活動などをとおして、難解な砂防技術やカルデラの魅力を広く情報発信していくことを提案します。

2つ目は、「世界遺産登録に向けてアピールする方法を工夫すること」です。立山砂防の世界遺産登録をより多くの人々に知ってもらうことが、何より重要と考え、アニメによるアピールを提案します。日本には世界に誇るアニメ文化があり、私たちもアニメに親しみを持っていることから、アニメを駆使した情報発信は大きな効果があるものと考えます。さらに、立山カルデラを実際に多くの県民が訪れることができるよう、体験学習会などの充実も重要と考えました。

今回の研修をとおして、立山砂防の重要性を肌で感じ取ることができました。これからは、立山の魅力に加え、立山砂防が防災に大きな役割を果たしていることを、県内外の友人・知人などにアピールし、世界遺産登録を応援していきたいと思っています。



7 2017（平成29）年の概要

- (1) 期 日 高校生コース 7月24日（月）～26日（水）
 大学生コース 8月23日（水）～26日（土）
- (2) 場 所 高校生コース 座学：富山高校、富山県民会館 視察：常願寺川流域
 大学生コース 座学：富山県民会館 視察：常願寺川流域
- (3) 参加者 高校生コース 21名
 大学生コース 9名

(4) プログラム

○高校生コース

期 日	時 間	内 容	場 所
7月24日 （月）	9:00～	オリエンテーション	富山高校 視聴覚室
	9:05～	講座（松島吉信 富山県総合政策局参事） 「立山・黒部の世界文化遺産登録の取組み」	
	10:45～	講座（本田孝夫 立山カルデラ砂防博物館長） 「立山の自然と災害」	
	13:00～	講座（大坂 剛 立山砂防事務所長） 「立山砂防事業・現在の暮らしと立山砂防」	
7月25日 （火）	8:30～	現地視察（雨天コース） 立山カルデラ砂防博物館、立山博物館 等	常願寺川流域
7月26日 （水）	9:00～	オリエンテーション	富山県民会館 701号室
	9:05～	まとめ・意見交換 （尾畑納子 富山国際大学教授）	

○大学生コース

期 日	時 間	内 容	場 所
8月23日 （水）	13:00～	オリエンテーション	富山県民会館 705号室
	13:30～	講座（鈴木地平 文化庁文化財調査官） 「成熟した世界遺産のあり方を目指して」	
	15:00～	映像上映	
8月24日 （木）	10:25～	オリエンテーション	富山県民会館 705号室
	10:30～	講座（本田孝夫 立山カルデラ砂防博物館長） 「立山の自然と災害」	
	13:00～	講座（大坂 剛 立山砂防事務所長） 「立山砂防事業・現在の暮らしと立山砂防」	
	14:30～	講座（松島吉信 富山県総合政策局参事） 「立山・黒部の世界文化遺産登録の取組み」	
8月25日 （金）	8:30～	現地視察（雨天コース） 立山カルデラ砂防博物館、立山博物館 等	常願寺川流域
8月26日 （土）	10:00～	オリエンテーション	富山県民会館 705号室
	10:05～	まとめ・意見交換 （尾畑納子 富山国際大学教授）	

《レポート》

「ユースプログラム高校生コースに参加して」

富山高校探究科1年生

先人たちの努力によって富山平野の安全が守られていることが分かり、白岩砂防堰堤をはじめとする砂防施設の重要性を感じました。世界遺産登録についてはまず、他県と比較して唯一のもの、誇れるものを絞ることが第一だと思います。「富山県の砂防施設にしかない魅力」がなければ、集客も見込めませんし、世界遺産登録までの道のりは遠いと思います。逆に言えば、その唯一の魅力があれば、人々は誇れるし、世界遺産に登録される可能性も高まると思います。この3日間で私が砂防施設に感じた魅力は「自然との共生」です。過去の過酷な自然との闘いをとおして、今、平和な生活が保てている、富山県の発展を支えている、このこと自体が魅力、価値だと思います！

「ユースプログラム高校生コースに参加して」

富山高校探究科1年生

今まで富山県には台風が来ないとか地震がないと言われてきたけど、先人たちの努力があるからこそ今日があるんだなと思いました。立山カルデラで白岩砂防堰堤など間近には見るができなかったけれども、本宮堰堤など見ることができた砂防堰堤には大きなスケールを感じました。これらが私たちの生活を支えてくれているのだと思うと感動を覚えました。



8 2018（平成30）年の概要

- (1)期 日 高校生コース 7月23日（月）～25日（水）
 大学生コース 8月22日（水）～25日（土）
- (2)場 所 高校生コース 座学：富山県民会館 視察：立山カルデラ
 大学生コース 座学：富山県民会館 視察：常願寺川流域
- (3)参加者 高校生コース 37名
 大学生コース 9名

(4)プログラム

○高校生コース

期 日	時 間	内 容	場 所
7月23日 （月）	9:00～	オリエンテーション	富山県民会館 701号室
	9:10～	講座（松島吉信 富山県総合政策局参事） 「立山・黒部の世界文化遺産登録の取組み」	
	10:45～	講座（本田孝夫 立山カルデラ砂防博物館長） 「立山の自然と災害」	
	13:00～	講座（大坂 剛 立山砂防事務所長） 「立山砂防事業・現在の暮らしと立山砂防」	
7月24日 （火）	8:30～	現地視察 立山カルデラ砂防博物館、立山砂防 トロッコ（工事専用軌道）乗車、白岩堰堤 等	立山カルデラ
7月25日 （水）	9:00～	オリエンテーション	富山県民会館 701号室
	9:05～	まとめ・意見交換 （尾畑納子 富山国際大学教授）	

○大学生コース

期 日	時 間	内 容	場 所
8月22日 （水）	13:00～	オリエンテーション	富山県民会館 704号室
	13:30～	講座（下田一太 文化庁文化財調査官） 「成熟した世界遺産のあり方を目指して」	
	15:05～	映像上映	
8月23日 （木）	10:25～	オリエンテーション	富山県民会館 704号室
	10:35～	講座（本田孝夫 立山カルデラ砂防博物館長） 「立山の自然と災害」	
	13:00～	講座（大坂 剛 立山砂防事務所長） 「立山砂防事業・現在の暮らしと立山砂防」	
	14:35～	講座（松島吉信 富山県総合政策局参事） 「立山・黒部の世界文化遺産登録の取組み」	
8月24日 （金）	8:30～	現地視察（雨天コース） 立山カルデラ砂防博物館、立山博物館 等	常願寺川流域
8月25日 （土）	10:00～	オリエンテーション	富山県民会館 704号室
	10:05～	まとめ・意見交換 （尾畑納子 富山国際大学教授）	

《レポート》

「ユースプログラム高校生コースに参加して」

富山高校探究科1年生

私は今回のプログラムに参加して、私達が平和に日々の生活をおくれているのは、先人の努力や見えないところで働いている人たちのおかげだと強く感じました。

今まで「立山カルデラ」というワードは聞いたことがあったけど何があったのかやどんなものなのかは全く知りませんでした。でも、今回のプログラムに参加することによって、過去に起こった出来事を知れたり、実際に現地に行けたりと、知ることがなかっただろう事がたくさん知れました。本当に貴重な経験でした。

このように砂防や立山の歴史について知らない人は富山県内でもたくさんいると思います。まずは県民に広く、立山・黒部の歴史や砂防について、カルデラについて知ってもらうことが世界遺産登録につながると思います。

県民全体で世界遺産登録をおしていけたら、いいと思います。

「ユースプログラム大学生コースに参加して」

富山大学 第2学年生

今まで全く知らなかった立山砂防や富山の常願寺川の歴史について知ることができて、とても勉強になりました。

砂防ダムへの交通の便をよくなり、日本や世界へ知ってもらうためにもっとPRしていくことが大事だと思います。多くの外国人に知ってもらうために、翻訳機能の付いた解説を増やしてほしいと思いました。



9 2019（令和元）年の概要

- (1) 期 日 高校生コース 7月22日（月）～24日（水）
 大学生コース 8月22日（木）～24日（土）
- (2) 場 所 高校生コース 座学：富山県民会館 視察：立山カルデラ
 大学生コース 座学：富山県民会館 視察：常願寺川流域
- (3) 参加者 高校生コース 26名
 大学生コース 11名

(4) プログラム

○高校生コース

期 日	時 間	内 容	場 所
7月22日 （月）	9:40～	オリエンテーション	富山県民会館 701号室
	9:50～	講座（松島吉信 富山県総合政策局参事） 「立山・黒部の世界文化遺産登録の取組み」	
	11:25～	映像上映	
	13:00～	講座（本田孝夫 立山カルデラ砂防博物館長） 「立山の自然と災害」	
7月23日 （火）	8:30～	現地視察 立山カルデラ砂防博物館、立山砂防トロッコ （工事専用軌道）乗車、白岩堰堤 等	立山カルデラ
7月24日 （水）	9:00～	オリエンテーション	富山県民会館 701号室
	9:05～	まとめ・意見交換 （尾畑納子 富山国際大学教授）	

○大学生コース

期 日	時 間	内 容	場 所
8月22日 （木）	10:25～	オリエンテーション	富山県民会館 704号室
	10:30～	講座（松島吉信 富山県総合政策局参事） 「立山・黒部の世界文化遺産登録の取組み」	
	13:00～	講座（西川英佑 文化庁文化財調査官） 「世界遺産について」	
	14:35～	講座（野呂智之 立山砂防事務所長） 「立山カルデラの砂防事業～県と国による対 策の歴史～」	
8月23日 （金）	8:30～	現地視察（雨天コース） 立山カルデラ砂防博物館、立山博物館、 本宮堰堤、大転石 等	常願寺川流域
8月24日 （土）	10:00～	オリエンテーション	富山県民会館 706号室
	10:05～	まとめ・意見交換 （尾畑納子 富山国際大学教授）	

《レポート》

「ユースプログラム高校生コースに参加して」

大門高校 1 年生

富山県に住んでいても、安政の大地震や砂防のことを知らなかったことがとても勿体ないと思った。あれだけ性能の高い砂防を 100 年以上前に作ろうとしていたことは日本の技術として誇れることだし、世界的にも最大級であることは、世界遺産に登録する資格を十分もっていると思う。これからは、世界に知ってもらえるよう広告をしたり、交通を整備することが必要になると思うので、砂防のすばらしさを発信するために観光を目指して活動すべきだと感じた。

「ユースプログラム大学生コースに参加して」

富山高等専門学校 4 年生

今回このプログラムに参加して、立山につくられた砂防について初めて知りました。富山県民でありながら知らなかったということを感じざるぐらいにすごい技術を用いてつくられたものであるということを知ることができました。このようなプロジェクトを広く伝えて、参加する大学生の数や範囲も広めていけたらいいと思います。実際に体験しないと分からない砂防の魅力を多くの人に伝えていってほしいです。また、ディスカッションは勉強になることも多く、私自身スキルも上がったような気がします。本当に参加できてよかったです。



10 2020（令和2）年の概要

(1) 期 日 大学生コース 9月3日（木）～5日（土）

※2017（平成 29）年から開始した高校生コースは、新型コロナウイルス感染症の影響により中止

(2) 場 所 大学生コース 座学：富山県民会館 視察：立山カルデラ

(3) 参加者 大学生コース 12名

(4) プログラム

期 日	時 間	内 容	場 所
9月3日 (木)	10:25～	オリエンテーション	富山県民会館 704号室
	10:30～	講座（松島吉信 富山県総合政策局参事） 「立山・黒部の世界文化遺産登録の取組み」	
	13:00～	講座（西川英佑 文化庁文化財調査官） 「世界遺産について」	
	14:35～	講座（野呂智之 立山砂防事務所長） 「立山カルデラの砂防事業～県と国による対策の歴史～」	
9月4日 (金)	8:30～	現地視察 立山カルデラ砂防博物館、立山砂防トロッコ (工事専用軌道) 乗車、白岩堰堤、泥谷堰堤、 本宮堰堤、立山温泉跡地、泥鱒池 等	立山カルデラ
9月5日 (土)	10:00～	オリエンテーション	富山県民会館 704号室
	10:05～	まとめ・意見交換 (尾畑納子 富山国際大学教授)	

《レポート》

「ユースプログラム大学生コースに参加して」

国土舘大学 第3学年生

全国・世界へ砂防の魅力を発信するのはもちろん、地域の人々に愛されることも世界遺産の重要な役割であると思います。最近登録された古墳群なども地域住民からの強いバックアップがあったと聞きます。

立山砂防はアクセスしにくい点などから身近に感じにくいという点がありますが、自然と人工物が共存している希少な例であるという強みでもあります。

小学校教育などで、身近に楽しく砂防に対する教育を深められればよいと思います。作文大賞やポスター大賞などを通じることなども面白いと思います。

立山砂防が富山県民の精神的支柱の一つとなることを大事であると考えています。

「ユースプログラム大学生コースに参加して」

富山県立大学 第2 学年生

台風や地震などの自然災害が少ない富山県の歴史の中に、先人たちによる立山砂防の堰堤の建設における苦悩の日々とその歴史が隠されていたということを知らなかった。

世界遺産は登録されたらそれで終わりではなく、そこから未来永劫守っていくためのスタートラインに過ぎないという考えを持たれていることを初めて知った。

今の児童が大人になったとき、砂防に関する歴史を知って後世に伝えていくことが増えるといいなと思った。



11 2021（令和3）年の概要

高校生コースは、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。

大学生コースは、実施する予定で参加者を募集していたが、8月16日に富山県の新型コロナウイルスの感染拡大の警戒レベルが「ステージ3」に移行したことに伴い、（8月20日には「まん延防止等重点措置」が適用（富山市を措置区域とする））中止することとし、申込者に中止の案内を送付した。

(1)実施予定日 大学生コース 8月26日（木）～28日（土）

(2)申込者 大学生コース 16名

(3)予定していたプログラム

期 日	時 間	内 容	場 所
8月26日 (木)	10:25～	オリエンテーション	県民会館 704号室
	10:30～	講座（松島吉信 富山県文化財アドバイザー） 「立山・黒部の世界文化遺産登録の取組み」	
	13:00～	講座（西川英佑 文化庁文化財調査官） 「世界遺産について」	
	14:35～	講座（野呂智之 立山砂防事務所長） 「立山カルデラの砂防事業～県と国による対策の歴史～」	
8月27日 (金)	8:30～	現地視察 立山カルデラ砂防博物館、立山砂防トロッコ（工事専用軌道）乗車、白岩堰堤、泥谷堰堤、本宮堰堤、立山温泉跡地、泥鱒池 等	立山カルデラ
8月28日 (土)	10:00～	オリエンテーション	県民会館 704号室
	10:05～	まとめ・意見交換 (尾畑納子 富山国際大学教授)	

12 2022（令和4）年の概要

(1)期 日 大学生コース 9月8日（木）～10日（土）

※高校生コースは、新型コロナウイルス感染症の影響により中止

(2)場 所 大学生コース 座学：富山県民会館 視察：常願寺川流域

(3)参加者 大学生コース 12名

(4)プログラム

期 日	時 間	内 容	場 所
9月8日 (木)	10:15～	オリエンテーション	富山県民会館 706号室
	10:30～	講座（松島吉信 富山県文化財アドバイザー） 「立山・黒部の世界文化遺産登録の取り組み」	
	13:00～	講座（西 和彦 文化庁主任文化財調査官） 「世界遺産について」	
	14:45～	講座（三輪賢志 立山砂防事務所長） 「立山カルデラの砂防事業～県と国による対策の歴史～」	
9月9日 (金)	8:30～	現地視察（雨天コース） 立山カルデラ砂防博物館、立山博物館、 本宮堰堤、大転石 等	常願寺川流域
9月10日 (土)	10:00～	オリエンテーション	富山県民会館 706号室
	10:05～	まとめ・意見交換 (尾畑納子 富山国際大学名誉教授)	

《レポート》

「ユースプログラム大学生コースに参加して」

富山国際大学 第2学年生

砂防堰堤について詳しく学んだことで、富山県の災害についてや常願寺川が引き起こした被害を身近に感じることができました。語り部の活動やアニメの作成など、動き出した計画は多いと思われそうですが、私たち大学生の耳には中々届いてなかった情報を3日間かけて知識として取り入れることができました。大変貴重なプロジェクトに参加させていただき、仲間の意見や考え方にも驚かされました。

世界遺産登録には、県民に対する認知の「きっかけ」をつくる必要があります。例えば、SNSで県民を集め、巨大な砂防堰堤の模型を作り、富山駅やきときと空港に展示するとします。そうすると、県民の間で砂防に繋がった人間関係ができ、砂防に対する意識を多くの県民に一度に高められると考えました。

「ユースプログラム大学生コースに参加して」

日本大学 第4学年生

すごく勉強になる施設で、価値がある所ではあるが、訪れる人が少ないことが残念だと感じた。世界遺産に登録されるまでは土木や地域に興味のある人が多く訪れると思うので、その層をターゲットにしつつ、今後のターゲットも見据えて人をたくさん呼べればいいと思った。

多くの人に訪れてもらうために、UD（ユニークデバイス）を導入する必要があると思った。また、世界遺産にしたい所以外にも、まち全体のいい所をたくさん紹介して、まちそのものの魅力についてももっと大事にして紹介すると良いのではないか。世界遺産への登録にこだわるだけでなく、本来のまちや施設を良く活かして魅力を磨いていくことが、自然と世界遺産としての価値をつくっていくことにつながると思う。



13 2023（令和5）年の概要

(1) 期 日 親子コース 7月27日（木）

高校生・大学生等コース 8月22日（火）～23日（水）

(2) 場 所 親子コース 立山カルデラ砂防博物館、立山砂防事務所

高校生・大学生等コース 視察：立山カルデラ 座学：富山県防災危機管理センター

(3) 参加者 親子コース 小学校5年生～中学校2年生の児童・生徒とその保護者22名

高校生・大学生等コース 15名

(4) プログラム

○親子コース

期日	時間	内容	場所
7月27日 （木）	8:55	集合	富山駅北口
	9:00～	立山カルデラ砂防博物館へ移動	
	10:00～	館内解説・自由見学・昼休憩	立山カルデラ 砂防博物館
	13:00～	砂防実験、VR体験、3Dシアター、 立山砂防トロッコ体験乗車	立山砂防 事務所
	14:30～	本宮堰堤見学	
	15:30～	富山地区広域圏クリーンセンター展望台見学	
	16:30	解散	富山駅北口

○高校生・大学生等コース

期日	時間	内 容	場 所
8月22日 （火）	8:30～	現地視察 立山砂防トロッコ（工事専用軌道）乗車、 白岩堰堤、泥谷堰堤、本宮堰堤 等	立山カルデラ
8月23日 （水）	9:15～	オリエンテーション	富山県
	9:20～	講座（西村幸夫 國學院大學教授） 「世界遺産の考え方」	防災危機管理 センター
	10:30～	講座（松島吉信 富山県文化財アドバイザー） 「立山・黒部の世界文化遺産登録の取組み」	研修室5-A
	11:30～	まとめ・意見交換 （尾畑納子 富山国際大学名誉教授）	

《レポート》

「ユースプログラム親子コースに参加して」

富山県内中学 1 年生

えん堤があることで、土砂災害をととても防ぐことができるのが分かった。トロッコは、山をジグザグ登っていることを知った。スイッチバックが面白かった。説明の人の話がとてもよく分かった。

「ユースプログラム親子コースに参加して」

富山県内中学校 2 年生

富山県はなぜ災害が少ないのだろう？と、ずっと疑問に思っていたので、砂防堰堤のおかげだと分かってよかったです。自由研究に使いそうです。

「ユースプログラム親子コースに参加して」

保護者

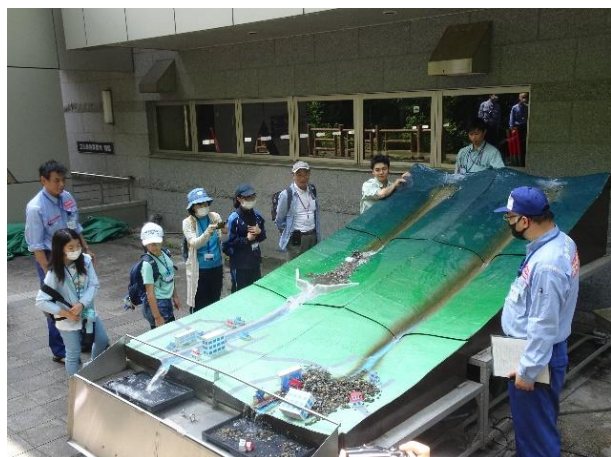
富山県民であれば知っておきたい内容だと思いました。

先人の方々が安全に住めるように砂防工事に携わって、現在も続いていること、その現状を知れて勉強になりました。水害があって、砂防を考えられたこと、素晴らしい仕事であることが分かりました。今現在、仕事に携わっておられる方々にも感謝です。

「ユースプログラム高校生・大学生等コースに参加して」

金沢大学 第 3 学年生

私自身、土木系の分野を学ぶ学生ですが、立山砂防についてほとんど知りませんでした。色々、説明を聞いていると、とても歴史が深く、富山平野を長きにわたって守り続けている偉大な存在であると分かり、ありがたいと感じました。また、砂防堰堤の科学技術をもっと深く勉強したいと感じました。



14 ユースプログラムでの主な提案

(1) 県内外への積極的で分かり易い情報発信

【提案：アニメ映像による情報発信】

○提案の趣旨

日本はアニメ文化において世界的に優秀な作品が多く制作されており、また優れた技術を持っている。さらに、現代の若者にはアニメが日常生活に浸透している。立山砂防の歴史・文化、世界遺産の取り組みをアニメで発信すれば大きな効果があるのではないかと。



©富山県世界遺産登録推進事業実行委員会

◇提案への対応

- ・平成 29 年度にアニメ映像「立山砂防・土砂との闘い～世界に誇る防災遺産」(14 分)を制作した。
- ・アニメを収録したDVDを県内外の関係機関、大学・高校・小中学校などに配布するとともに、ホームページで公開し、世界に発信している。

【提案：立山カルデラツアー等の実施】

○提案の趣旨

立山カルデラには歴史的な砂防施設、立山温泉跡、文学碑や工事専用軌道など魅力的な資産が存在する。立山黒部アルペンルートには国内外から多くの観光客等が訪れるが、立山カルデラにも一人でも多くの関心ある人々が行くことが出来るような工夫が必要でないかと。

◇提案への対応

- ・立山カルデラ砂防博物館では立山砂防事務所と協力して、立山カルデラ砂防体験学習会を開催し、一般県民の案内活動を行っている。
- ・年間約 2,000 人の枠を確保しているものの、天候等の条件から実績は年間約 1,000 人に留まっている。
- ・ユースプログラムでの現地視察を継続するとともに、立山カルデラ砂防体験学習会のバスコースの運用を改善し、多くの人々を現地へ案内できるよう工夫する。

(2) 世界遺産としての価値の探究

【提案：世界遺産のための調査研究・普及啓発】

○提案の趣旨

世界遺産登録には国際的な学術的価値が求められるが、県民だけでなく、国内外に重要性が認められるよう、調査研究を深めてアピールしていかなければならない。

◇提案への対応

- ・これまでも県民や全国の関心ある方々に理解していただくために、立山砂防世界遺産登録推進シンポジウムを開催してきた。今後は当面、これまでの成果を整理し、立山砂防の価値を世界に伝える仕組みやストーリーの構築、守るべき本質的な価値の探究といった調査研究に注力していく。
- ・引き続き、インタープリメント（国際防災学会）をはじめとし国際学会での発表、PRをとおして、立山砂防の世界遺産登録をアピールする。

立山砂防世界遺産登録推進
ユースプログラムーこれまでのあゆみー

富山県世界遺産登録推進実行委員会
〒930-8501 富山県富山市新総曲輪 1-7
富山県地方創生局観光振興室
2024(令和6)年3月
